袋井あやぐも学園
袋井市立袋井中学校だより

あやぐも

―自主・協同―

～夢を追い続ける生徒の育成

令和２年９月７日発行

社会人としてのマナーを身につけ、主体的に行動する生徒の育成

２学期がスタートして２週間がたちました

例年より短い夏休みが終わり、２学期が順調に進み始めています。まだまだ暑さが厳しい毎日ですが、熱中症対策・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、生徒が安全に学校生活を送れるように進めています。２学期最初の学校・生徒のようすを紹介します。

＜２学期始業式＞

８月 25 日(火)

全校生徒が体育館に集まることができないため、リモートによる始業式を行い、各学年の代表生徒が「２学期の決意」を発表しました。始業式後には、安全担当の栗原教諭から自転車通学について、「大切な３つのＬ（keep Left・one Line・Light on）を実践しよう」という話がありました。

＜始業式　小澤校長先生の話＞

「18.1」は何の数字かわかりますか？これは８月 20 日に藤井聡太さんが、史上最年少（18 歳１か月）でタイトル二冠と八段への昇段をしたということです。藤井さんは、１４歳の時に、「将棋に巡り合えたのは運命だったのかなとは思いますし、強くなることが使命…使命までいくかわからないですけど、自分のすべきことだと思います」と語っています。わずか１４歳で将棋との出会いを運命と捉え、強くなるために、自分ですべきことをやってきたことの積み重ねが今回の偉業につながっていると思いました。

１学期の終業式で、次のような話をしました。「夏休みそして、２学期に向けて大切なことは『自分と他人の命を大切にすること』『自分を高める何か一つに挑戦する』ということです。」

藤井聡太さんは、たぐいまれな才能も持ち合わせていますが、みなさんも自分を高める何らかの挑戦をしてほしいと思います。前にも言いましたが、挑戦する内容は、ささいなことでも構いません。夏休み中にまだ挑戦し切れていない人も、ぜひ、２学期から自分を高める何かに挑戦をしてください。期待をしています。

さて、２学期には、大きな行事があります。新型コロナウイルス感染症予防のため、当初は１学期に計画していた新体育大会は 10 月７日に時期を変更して実施し、あやぐも祭は 10 月 30 日に行われます。ともに、協力のステージで実施します。みなさんは、この「協力のステージ」でどのように取り組んでいきますか？私からは、みなさんが「協力」という言葉の意味を自分なりに捉えて、自分でできること、集団としてできることが何かを自ら考えて行動をしていくことを期待しています。そして、それを次の自鍛のステージにつなげてください。

また、先ほど「協力」という言葉の意味について考えてほしいとお話ししましたが、協力とは、人と人との関わりの中で、培われるものです。学校生活では、授業や部活動、生徒会活動、そして行事では、仲間といっしょに実践していきます。そして、仲間との関係が信頼と思いやりに満ち、ともに、助け合い、支え合うものであれば、つまり協力し合えるものであれば心は安定し、穏やかな楽しい生活を送ることができるのです。

しかし、みなさんの中で、周囲の目が気になることがありませんか。友達にどう思われているか、不安に思ったことも少なからずあったかもしれません。この気持ちの背景には、相互信頼の関係が潜んでいるのです。

日本経済団体連合会の元会長であった土光敏光さんの著書の中から、この「相互信頼」に関する内容を引用して紹介します。「組織の中に、相互信頼を築き上げていくことは、なまやさしいことではない。人はこの命題を『信頼を相手に求める』ことにすりかえてしまう。そうではなく、『信頼される自分になる』ことを考えるべきだ。相手よりも自分である。自分という一人一人から、相互信頼は育っていくのである。信頼される人になるためには、どういう行動基準が求められるのか。

その行動基準として、次の五箇条を挙げる。

一、相手の立場になって物事を考える。　　一、約束をきちんと守る

一、言うことと行うことを一致させる。　　一、結果をこまめに連絡する。

一、相手のミスを積極的にカバーする。

わかりきったことかもしれない。しかし、わかりきったことが、なかなか行えないのである。われわれ凡人は謙虚な反省の上に立って、日常の仕事や生活の中で､素直に実践していきたい。自分がそうであれば、それに感応して、相手もそうなってくれるのだから・・・」

少し難しく感じたかもしれませんが、相互信頼は、待っていてもやって来ません。その近道は、相手に信頼されるような自分になることを日頃の生活の中で、継続して実践していくことが大切です。ぜひ、袋井中学校の生徒のみなさんが、相手に信頼されるような自分を目指し、協力し合っていくこと、そして、あいさつ、２分前着席、静かをつくる、人の話をよく聞くなどの、日頃大切にしていることも徹底していくことで、みんなで、「学校が楽しい」を実感できるようにしていきましょう。

最後に、新型コロナウイルス予防のための、新しい生活様式、つまり、マスクの着用や手洗いの励行や３密を避けた行動をすることはもちろん、県内でもコロナ感染が拡大している中、袋井市内で、また､袋井中からも新型コロナウイルスの陽性者が出てもおかしくないという状況下であることから、万が一のみなさんの身近に感染者が出たとしても、その人を非難したり、差別したりすることがないようにしていってください。

＜ステージ集会・ソーラン節練習＞

集会：８月 26 日（水）
練習：８月 31 日（月）～

「協力」のステージについての集会を行いました。生徒会役員・体育大会プロジェクト委員から、新しい体育大会**「彩雲祭（さいうんさい）」**について説明がありました。内容については、昨年度から生徒が話し合いを重ねて決定しました。袋井中伝統の「ソーラン節」は、２・３年生の有志、約 200 名の生徒により行います。３密を避けての練習がスタートしました。

＜中央委員会・専門委員会＞

専門：８月 31 日（月）
中央：９月　１日（火）

前期生徒会の活動も残りわずかとなってきました。専門委員会では、常時活動の振り返りや今後の活動について確認を行いました。中央委員会では、生徒会長の話の後に各専門委員長から委員会の連絡、各学年の中央委員から学年の様子が報告されました。また、前期・後期の節目に行われる「生徒総会」に向けての説明もありました。よりよい袋井中学校にするために何をすべきか、何ができるかを考え、全校でチャレンジしていきます。

＜各教科の授業・学力診断調査＞

学力診断調査（３年）：９月２日（水）

２学期の各教科の授業も軌道に乗り始めました。１年技術・家庭科では、食品の特徴を考えながら食品群に分類する学習を行いました。２年社会科では、ＩＣＴ機器を使いながら輸出入の仕組みを学ぶことで、日本と外国の繋がりを考える学習を行いました。道徳の授業は、各教科の授業同様に年間計画と学級の実態から、さまざまな手立てを考えながら授業を行っています。

３年生は県下一斉の「学力診断調査」を行いました。定期テストとは違い、出題範囲も広く、教科の力がどれだけ身についているかを確認する上で大切な調査です。進路選択が近づいてきている３年生は、休み時間も次時の教科の確認をしていました。

本日(9/7)の帰りの会では、時間を延長して全学級で「ミニ道徳」を行いました。内容は、現在社会的にも問題になってきている『新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見』について行いました。動画を視聴したり、文部科学大臣のメッセージを読んだりしながら、生徒と教師で作成したワークシートに自分の考えをまとめました。

活動で使用した資料と文部科学大臣からのメッセージ「保護者や地域の皆様へ」を掲載しました。メッセージをお読みいただくとともに、御家庭でも『新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見』について話題にしてみてください。

児童生徒等や学生の皆さんへ

新型コロナウイルスが広がってから、皆さんは、学校はどうなるのだろう、この先どうなるだろうと、不安だったのではないでしょうか。新しい学期を迎えるに当たって、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかからないようにするには、いくつかの方法があります。すでに皆さんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまでも皆さんは風邪をひいたり、インフルエンザになったりしました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後、皆さんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だと分かったら自分は大丈夫かなと不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなっても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人達が心ない言葉をかけられたり、嫌いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないよう、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、皆さんの日々の生活は一変したと思います。
以前のようには、友達と会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスを抱えている人も多いでしょう。

これまでも、私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そうして、私たちは、病気と共存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになり、新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、皆さんの応援団として、将来の見通しを持ち、未来の社会の担い手である皆さんが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、皆さんは今自分ができる予防をしっかり行い、将来の目標を持ち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています。

令和二年八月
文部科学大臣　萩生田　光一

新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見などでつらい思いをしたら

児童生徒等の皆さんの不安や悩みを受け止める相談窓口は、下記の通りです。一人で悩まず、ぜひ利用してみて話をしてみてください。

- □ 24時間子供SOSダイヤル　0120-0-78310
  https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1306988.htm
- □ 子どもの人権110番≪法務省≫　0120-007-110
  http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html
- □ 都道府県警察の少年相談窓口
  https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/soudan.html
- □ いのちの電話の相談　0120-783-556
  一般社団法人日本いのちの電話連盟
  https://www.inochinodenwa.org/
- □ チャイルドライン（18歳までの子供が対象）　0120-99-7777
  https://childline.or.jp/
- □ 新型コロナこころの健康相談電話　050-3628-5672
  一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本公認心理師協会
  http://www.jsccp.jp/info/infonews/detail/?no=730

文部科学省

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができておりますのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月

文部科学大臣　萩生田 光一

学校では以下の動画を視聴し、学習指導を行いました。可能な方は御覧ください。
新型コロナウイルス感染症に関連する差別、偏見等の防止のための人権啓発動画
とくしま こころのサポート「じんけんミニスタディ２」
https://www.youtube.com/watch?v=5ZzBM2iCdp8&feature=youtu.be